

令和 2 年度

第 1 回松戸市地域自立支援協議会
専門部会活動報告書

令和2年度 松戸市地域自立支援協議会 相談支援部会

【部会の活動目的】

- ① 計画相談の作成率及び質の向上を目的に、松戸市の相談支援体制の役割を共有し、支援体制を強化していく。
- ② 障害のある当事者やその家族が生活に必要な支援について検討していく。

課 題

- ①中央圏域・常盤平圏域・小金圏域の各圏域それぞれで地域包括ケアシステム構築が進められているところ、障害分野における相談支援体制の整理や、地域課題の分析等の事柄についても、3環境区を念頭に置いて進めていく必要がある。
- ② 昨年度の相談支援事業所連絡会『サポサポ』により、障害分野以外とのネットワーク形成には十分な達成が見られたものの、障害の相談支援事業所の参加状況が十分とは言えず、知識・技術や問題意識等に係る全体の底上げに課題が残っている。

目指す姿

障害がある人からの様々な相談を地域のネットワークで受け止めて自立した生活を支えるために必要な支援を展開できる

令和 2年度 の目標

【3環境区を意識した 相談支援体制の整理】

3環境区を意識して支援を組み立てるべき場面、エリアを積極的に活用することが有効な部分や、逆に地域単位ではなく、松戸市全体や近隣市も含め広圏域で捉えるべきものを整理していく。

【サポサポの活動支援 及び運営方法の見直し】

相談支援事業所のサポサポへの参加率を高め、相談支援事業所間のネットワーク強化をさらに進めていく。

具体的な 取り組み

- ① 3環境区について定量的な比較と定性的な評価を行い、エリアごとの支援の実態を整理する。
- ② 地域診断の結果を踏まえて、実際の支援においてエリアを活用できないか、検討し、実践していく。
- ③ 地域診断の結果を踏まえて、他分野との連携の仕方を検討する。

- ① 内容面では障害に特化したプログラムの実施をする。
- ② 運営面では参加者を巻き込んだ企画会議の実施をする。
- ③ 地域課題の抽出・整理は、昨年度の内容も踏まえた上、3環境区も念頭に置いて継続していく。

○3 環境区を意識した相談支援体制の整理

【具体的取り組みの内容】

① 地域診断

松戸市の中で「どこになにがあってどうつながっているのか」という点に関して地域を診断する。地域ごとの特性、偏り、得手不得手や変化など、支援者側と対象者側の両面で整理し、定量的な比較と定性的な評価を行う。

② 障害の中でのエリアの活用法

地域診断の結果を踏まえて、エリアを活用したリアルタイムな情報共有や資源把握の仕組み、顔の見える関係の深化のさせ方を検討し、実践していく。その中で、エリアの中でできることを、難しいことを把握し、エリアを積極的に活用することが有効な部分や、逆に地域単位ではなく、松戸市全体や近隣市も含め広圏域で捉えるべきものを整理していく。

③ 他分野を含めた地域共生との連携法

地域診断の結果を踏まえて、各エリアにおいて障害の枠を超えるケースで、福祉まると相談室や地域包括支援センターと連携する際のルールや課題点を整理していく。

【下半期への継続検討事項】

- ・現在、松戸市では3環境区の各エリアを基盤とした地域包括ケアシステムの構築が進められているところ、もともと障害分野では「障害種別」の立法に基づいて支援体制が構築されてきた経緯がある。現在は、3障害を総合的に支援する立法の下で、「障害種別」から「地域」ベースの支援に移行している段階。

⇒現場の支援関係者の声を十分に吸い上げつつ、「障害種別」ベースで捉えるべき事項と「地域」ベースで組み立てるべき事項とを見極める作業が重要となる。

○相談支援事業所連絡会「サポサポ」の活動支援及び運営方法の見直し

① 内容面

令和1年12月18日のアンケートで、アセスメントやプラン作成の実践的技術を扱う会や困難事例検討の場へのニーズが高かったことを受け、障害に特化したプログラムを実施する。

② 運営面

昨年度中は相談支援部会後に次回以降のサポサポの開催内容を話し合っていたが、参加者にも当事者意識を持ってもらい、かつ、各参加者のニーズや問題意識を開催内容に盛り込んでいくため、サポサポ開催後に次回以降の企画会議を実施する。

【次年度への継続検討事項】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、4月からサポサポ開催の中止を余儀なくされている。第2波による感染リスクを回避しつつ、相談支援事業所間並びに他分野とのネットワークを継続的に発展させるため、開催方法やテーマ等を試行錯誤していく必要がある。

令和元年度 松戸市地域自立支援協議会 就労支援部会

【活動目的】

- ①就労継続支援 A・B 型事業所から一般就労を目指すための仕組み作り
- ②障害者雇用の拡大（企業向け支援）
- ③就労継続支援ネットワークの運営支援

課 題

- ① 就労継続支援事業所の利用者が一般就労を希望するにおいては、職場のマッチングの難しさ、就労支援ノウハウが十分でない、就職後の定着支援において事業所職員体制でのフォローが困難、事業所運営の問題、離職した場合に戻る受け皿があるのかという不安、世間の荒波から守りたいというご家族の気持ちなどの様々な課題がある。
- ② 令和元年度における民間企業の法定雇用率達成割合は、松戸市は 46.9%であり、全国 48.0%、千葉県 51.6%、ハローワーク松戸 49.2%で千葉県内のハローワークの管轄の中で一番低く、市内企業に対し、障害者雇用の周知・啓発がまだまだ必要である。
- ③ 昨年度、就労継続支援ネットワーク代表者と就労支援部会で企画・運営を行い、自立運営を意識して開催してきたが、参加する事業所に偏りがあり、就労継続支援ネットワークの企画・運営には、まだサポートが必要。今後、必要性もふまえてネットワークの在り方を検討することが課題である。

目指す姿

障害のある人が、地域で生きがいをもって自立して生活できる

令和2年度 の目標

①就労継続支援 A・B 型事業所から一般就労を目指すための仕組み作りのための実態把握

②障害者雇用の拡大（企業向け支援）

③就労継続支援ネットワークの在り方の検討

具体的な 取り組み

就労継続支援 A・B 型事業所の利用者（家族）、職員への一般就労希望アンケートを実施。今年度の到達点の検討。

企業セミナーの開催について柏市と松戸市で HW と調整中。

就労継続支援ネットワークに在り方について、各事業所の意向を伺うためのアンケートの実施。

【具体的取り組みの内容】

- ① 就労継続支援 A・B 型事業所の利用者（家族）、職員への一般就労希望アンケートを作成。コロナの影響を受けて、求人数が減っていることもあり、アンケートの配布時期を検討。今年度は、実態把握を到達点とする。
- ② 企業セミナーの開催について柏市と松戸市でハローワーク松戸と調整中。
- ③ 就労継続支援ネットワークの存続希望について、就労継続支援事業所にアンケートを行う。継続を希望する事業所が多数ある場合、企画・運営を自主的に取り組める在り方を検討。継続が難しいという事業所が多い場合でも、就労支援部会の主催で年 1 回程度は研修等を兼ねて集まる機会を確保することを提案予定。

【下半期への継続検討事項】

- ① 就労継続支援 A・B 型事業所の利用者（家族）、職員への一般就労希望アンケートについて
9 月 アンケートの配布、10 月 アンケートの回収・集計、11 月 回収結果の分析予定。
- ② 企業セミナーの開催について
柏市と松戸市でハローワーク松戸と調整して具体的内容を決めていく。
- ③ 就労継続支援ネットワークの在り方について
8 月 アンケートの配布、9 月 アンケート結果を基に就労継続支援ネットワークを開催し、協議予定。

令和元年度 松戸市地域自立支援協議会 こども部会

【部会の活動目的】

- ① 障害のある子どもとその家族の「相談と支援」についての現状と課題を把握する
- ② 障害のある子どもとその家族が安心して生活するために必要な「支援」を検討する

課 題

〔早期相談支援〕

- ① 幼稚園や保育園等の現場では発達に遅れのある子どもがいても、どこが相談窓口になるのか、どういったサービスが受けられるのか先生が知らない場合も多く、うまく支援に繋がらないケースもある。
- ② 支援が各分野（医療・教育・福祉・保健など）で行われ、分野を越えた一貫した支援が受けづらい。また年齢によって窓口や使えるサービスが異なるため、支援したい子どもがいた場合でも、その子が今どんな資源が使えるのかわかりづらい。

〔ライフサポートファイル〕（以下、LSF と略）

- ① ライフステージごとに支援の担い手が変わりやすいため、一貫した支援が継続されにくい。
- ② LSF を持っていて、保護者から何をどのように書いていいかわからないといった声があり十分な活用に至っていない。支援者側（事業所側）からLSFを活用してもらうような働きかけが十分できていない。

目指す姿

支援が必要な子どもが抜けなく、切れ目なく支援を受けられる

令和2年度 の目標

〔早期相談支援〕

早期相談支援マップを活用して、子育て機関と障害福祉関係機関が相互に相談・連絡しあえ、障害の疑われる子が早期に相談につながるようになる。

〔LSF〕

ライフステージが変わっても、保護者・支援者がライフサポートファイルを活用して必要な支援が継続し、お子さんの将来の見通しがもて安心できる。

具体的な 取り組み

- ① 早期相談支援マップを周知（各機関にマップを郵送・メール等）する。
- ② 部会員が関係している会議を活用して各機関に早期相談支援マップの周知を進める。

- ① ライフサポートファイルのより一層の周知と書く支援、使う支援をデジタル化を含めて検討する。
- ② ライフサポートファイルの活用のために支援者（相談支援専門員等）に協力を呼びかける。

【具体的取組の内容】

[早期相談支援]

- ① 早期相談支援マップの趣旨を理解いただくために、趣意書を作成。また、発達の違いの気になる子どもがいた場合に、どのようにして早期相談支援マップを活用して繋げることができるかの早期相談フロー図を作成中。
- ② 未就学児を主たる対象として周知進めることを確認（幼稚園、保育園等）。コロナの関係で会議の開催が不透明であるが、園長会議などの保育園が参加している会議にて早期相談支援マップの周知を進めるよう準備を進めている。また、マップに掲載してある他機関にも郵送してマップの周知ができるよう準備中。

[LSF]

- ① 各部会員の業務の範囲内で、取り組みそうな周知・書く支援・使う支援を確認。初回面談の際に LSF を持っているか親に確認するなど、各機関で様々な周知方法の意見があがっている。年度当初は、保護者が集まるような場に出向いて書く支援を行うことを検討していたが、コロナの影響で人が集まる場に出向くことが困難になったため、デジタル化の推進（ダウンロードして PC からの直接入力、簡単な書き方・使い方動画作成など）を検討中。
- ② コロナの影響で部会開催できず、下半期に向けて準備中。

【下半期への継続検討事項】

[早期相談]

- ① 早期相談支援マップの周知と配布。各部会員の業務の範囲内で可能な限り子育て機関に説明に出向き、早期相談支援マップの存在を知ってもらう。

[LSF]

- ① ライフステージが変わるタイミング（就学相談、高校 3 年生の進路相談等）で LSF を活用して支援が繋がれるような仕組みづくり。
- ② 相談支援部会と連動して、相談支援専門員に LSF を支援に活用していただく協力依頼。
- ③ 周知・書く支援において、コロナの時代や保護者のニーズに合わせたデジタル化の推進。